

平成29年度 介護の日 作文・写真コンクール作品集



茨城県知事賞
永堀 則雄 (ユアアイの家) 「幸せだよ♡」



茨城県老人福祉施設協議会長賞
佐々木 文子 (いきり苑那珂) 「一筆入魂」



審査委員長賞
木村 聡 (トランス田村) 「島むすめヨ〜♪」



審査委員長賞
宮部 ちあき (玉樹) 「禁じられた遊び♪」



情報委員会委員長賞
會曾川 こず恵「パースデーおいなりケーキ♡」



情報委員会委員長賞
川瀬 陽道(ケアステーション藤が原)「早春のお出かけ」



茨城県介護福祉士会会長賞
先崎 剛(石岡陽だまり館)「年の差100歳!」



西宮 利加(ユアアイの家)「ハッピークリスマス」

はじめに

介護についての理解と認識を深め、介護従事者、介護サービス利用者及び介護に取り組む家族を支援するとともに、地域社会における支え合いや交流を促進することを目的として制定された「介護の日」(十一月十一日)の趣旨をふまえ、県では、介護を必要とする人や介護の仕事をしている人だけでなく、県民誰もが介護について考えるきっかけとするため、「介護の日」作文コンクールを実施しており、今年度で九回目となります。

今年度は皆様から千二百八十九作品もの多くの御応募をいただきましたことを厚く御礼申し上げます。

審査の結果、茨城県知事賞、茨城県議会会長賞、茨城県老人福祉施設協議会長賞、茨城県社会福祉協議会長賞、茨城県理学療法士会会長賞、茨城県介護福祉士会会長賞の各二作品の合計十二作品を選定いたしましたので、ここに受賞作品を御紹介します。

また、第九回目を迎えました写真コンクールは、特別養護老人ホーム等の介護施設・事業所で働いている介護職員などから、福祉・介護現場の感動、感激、喜びを伝える心温まる作品を募集して、応募された百九十一作品の中から、茨城県知事賞、茨城県老人福祉施設協議会長賞、茨城県介護福祉士会会長賞等に選定いたしました受賞作品を掲載しています。

目 次

| | |
|--------------------------|----|
| 大江 雅妃「浸透力」…………… | 1 |
| 竹下 由惟「笑顔がつながる喜び」…………… | 2 |
| 関 剛志「声を忘れない」…………… | 3 |
| 忍田 直哉「人格を磨き合った妻が何故」…………… | 4 |
| 岡田 彩花「不器用な優しさ」…………… | 5 |
| 館野 珠美「こめんねとありがとう」…………… | 6 |
| 井川 陽羽「介護を通して考えたこと」…………… | 7 |
| 藤浪あゆみ「ぎっかけ」…………… | 8 |
| 久保 真「利用者様に教えられながら」…………… | 9 |
| 山井 恭範「介護について考えたこと」…………… | 10 |
| 石井 翔大「時間を共有し共感しよう」…………… | 11 |
| 能城 裕子「介護で得た家族という絆」…………… | 12 |
| 茨城県老人福祉施設協議会の取り組み…………… | 13 |
| 茨城県社会福祉協議会の取り組み…………… | 14 |
| 茨城県理学療法士の会の取り組み…………… | 15 |
| 茨城県介護福祉士会の取り組み…………… | 16 |



本多 久美子 (ユーアイの家)
「元気一番!」



橋本 歩 (トレンランス田村)
「ん? だれだっぺ?」



江口 裕美 (四季の郷)
「夢のよう」



新井 悦子 (四季の郷)
「愛しい人」



石井 利明 (渡里すずらん苑)
「端午の節句は男の祭りだ!!」



内桶 みほ (笠間陽だまり館)
「私の方がうまいのよ」



柳箸 勇一郎 (ハートピア水戸)
「今年もたくさんとれました」



野口 晴美 (トレンランス田村)
「私 きれい?」



浦山 美沙 (成華園)

「～わんだふるライフ～ぎゅっと抱きしめて！」



茨城県知事賞

浸透力

私には、とても頑固で気が強く、優しい祖父がいました。よくいう、「昭和気質」な人で、もし俺が弱ったら構わなくていい、と冗談でよく言っているような人でした。恐らく自分の弱っている姿は誰にも見せたくなかったのでしょう。しかし、祖父は肺がんを患い、認知症を発症し、亡くなりました。初めは抗がん剤治療のみだったので、私たち家族は定期的に面会をするだけでしたが、お風呂好きの祖父にとって毎日好きなように入浴できないストレスや環境の変化で喋れなくなってしまう、祖母と母が交代で介護をするようになり、二つの病が同時に起きてしまったことにより、急激に進行していきました。毎回会うたびに、自分のことも、置かれた状況も理解できないんだろかな、可哀相、年をとるってこういうことなんだ、と改めて感じていました。祖父の状態を理解してあげること、それが今一番大切なこと、そう思いました。

最近では、高齢者のことを若者にも知ってもらおう



水戸桜ノ牧高等学校 一年生

大江 雅妃

ための教育、ポスターの掲示、メディアが増加していると思います。私自身、学校でその教育を受けていなければ、シヨックで祖父と距離を置いていたかもしれません。しかし今は、社会全体が「高齢者を理解する」という雰囲気になってきていると思います。祖父を介護しているとき、祖母と母は言っていました。「起きているときは、ほぼずっと話しかけるの。そうするとね、何か考えて一生懸命あーとかうーとか声を出してくれるの。少しでも脳の刺激になれば、とって。」と。

祖父は愛されている、そう感じた瞬間でした。高齢者一人ひとりに寄り添い、同じ目線に立って、いつもと変わらない愛情を注ぐ。これが必要不可欠だということを、私は祖父の介護から学びました。日本でだんだんと高齢者についての理解は進んできましたが、まだ隅々まで行き届いていません。これからはこの雰囲気をもっと浸透させていく、これが私たちの未来にむけての課題です。



久保田 幸子 (れもん)

「見事グランプリ!! 七夕の願い叶うかな!？」



茨城県知事賞

笑顔がつながる喜び

三月に大学を卒業し、四月から介護職員として働き始めて五ヶ月が経ちました。慣れないことばかりで、最初は業務を覚えることに必死の毎日でした。そんな中でも、私はご利用者様一人ひとりと笑顔で接したいという思いだけはいつ何時でも持っているつもりでした。

しかし、徐々に任される業務や責任の重さが増え、体力的にも精神的にも疲れてしまい、ご利用者様と笑顔で接することができていないと感じることがありました。先輩職員の方にも「最近、竹下さんの笑顔が減った気がして心配しているの。」と声をかけられ、余裕のない自分が嫌で、とても落ち込みました。このままでは心配してくださった先輩職員、そして何よりもご利用者様やそのご家族に申し訳ないと思い、改めて入職した当初の気持ちで介護したいと決心しました。

気持ちを改めてから数日後、私は夜勤業務中、トイレ誘導のために一人のご利用者様の居室を訪れました。その方は私の顔を見て、「竹下さんが



特別養護老人ホーム 成華園 介護職員

竹下 由惟

来てくれてよかった。竹下さんはいつも笑顔で声をかけてくれるから、トイレに行きたいって遠慮なく言えるの。」と言ってくれました。その言葉をいただいて、私は自分の笑顔が好きになりました。それと同時に、ご利用者様にあなただが良いと思っただけのような介護者になりたいと強く思いました。

私たち介護職員が無表情や嫌な顔をしていたら、ご利用者様は不安や伝えたいことがあっても声をかけることをためらってしまうと思います。ご利用者様の思いを汲み取り、不安心を砕くことのできる存在になることを目標とし、これからもご利用者様一人ひとりと向き合っていきます。自分の笑顔がご利用者様の笑顔につながることを願って、日々努力し続けたいです。



遠藤 佑輔（ハートピア石岡）

「皆さんと一緒に『かんぱ〜い』」

茨城県議会会議長賞

声を忘れない

筑波東中学校 二年生

関 剛志

「よく来たな、つよし。」

がちりしていたじいちゃんの手は、骨の形が分かるほど細くなり、弱々しい力でほとくの手を精一杯にぎってくれました。お母さんは、そんなじいちゃんの手をとり、「爪が伸びてきたね。」と言って爪切りを始めました。

手足の爪を切ってやすりをかけ、ひげをそり、体をふく。慣れた手つきでこなすお母さんも、じいちゃんが病気になった当初は、ぎこちなく恐る恐るだったそうです。お母さんは、

「介護することに、理由なんていらなんだよ。ただ、目の前に困っている人がいたら、つよしだつて手を貸すでしょ。」

と、ほほ笑みながら言いました。

お母さんは、じいちゃんの家にはほとんど毎日手伝いに通いました。ぼくは何もできない分、一人で留守番をしている時に、食器洗いや洗たく物の取り込みなど、できることを手伝いました。

じいちゃんは回復するための手術を受けまし

た。きつと元気になるとみんなが信じて、じいちゃんを励ましました。その願いとは反対に、じいちゃんの体はどんどん弱り、できないことが増えていきました。自分でトイレに行くこともできなくなり、家族に申し訳なさそうに「悪いなあ。悪いなあ。」と何度も謝っていました。

「誰でも病気の時は仕方ないよ。どんまい。」とみんなは答えました。

じいちゃんは入退院を繰り返すようになり、二年前の夏、家族に見守られながら静かに息を引き取りました。じいちゃんは眠る様に穏やかな顔で、口元はまるでほほ笑んでいるように見えました。みんなの目からは悲しみの涙が流れていました。

お盆のお墓参りでは、お線香をあげるとじいちゃんが「よく来たな、つよし」と言ってくれているような気がして、「じいちゃん、ありがとう」と心の中でつぶやきました。



小林 啓子 (やすらぎの園デイサービス)

「さわやか女友達」

茨城県議会会議長賞

人格を磨き合った妻が何故



忍田 直哉

今から三年前の六月のある日私が所用で外出から帰宅してみると、妻が居間の電話機に手を伸ばそうとした姿で倒れており、声をかけたが返事がなく、すぐ救急車を呼び大学病院に収容され心房細動を起因とする脳梗塞と診断され、病院にて昼夜を問わず丸二日間十五分おきにリハビリ施術を行っていた。結果、収容時ほとんど動かなかった手足が動くようになり幸い「寝たきり」状態からはまぬがれ要介護4ながら施設にてショートステイ、デイサービスを交互に受けながらの生活であり当然施設以外の日常は自宅介護という現実をつきつけられている毎日である。

さて私の家族構成は私夫婦、息子夫婦、高二女子孫、中二男子孫の六人家族、幸いながら私に健康上の問題はなく、そこで理想的な家族介護とは如何なるものかと自問自答し私なりの家族介護五ヶ条を設け、毎日忠実に実行しており以下五ヶ条は、一、挑戦する姿勢（自分に負けない）二、悟り（これが私の人生であるというこの現実を素直に受け

入れる気持を持つ）三、妻が私に何を求めているか時に応じ敏感に察知し行動する。四、毎日午前一回午後一回必ず施設を訪問し施設での妻の態度を観察する。五、カメラ作戦。妻の若い時の一番輝いていた時の写真を見せる。家族の現在の活躍の場面の写真を見せる。その中で中学二年男子孫のジュニアオリンピック水泳競技で全国優勝した時のスナップ写真を見せた時の表情は正に健常者の笑顔の表情であり妻の脳の覚醒という目的で大いなる効果があったのではないかと認識している次第である。以上五ヶ条を毎日怠りなく実行した結果、周囲の人達から「忍田さんの奥さんは入所当時と比較すると思えられない程良くなったネ。」という言葉を受け、今のところ私の行動が理想的な介護とまではいかないにしても、それに近づいているのではないかと自負し、そして周囲の人達のお褒めの言葉に甘んずることなく更なる努力を重ね、妻が更に快方に向かう事を心から念ずる毎日である。



本橋 美由紀（ケアステーション藤が原）

「美女と花の競演」

茨城県老人福祉施設協議会長賞 不器用な優しさ

これは、私が特別養護老人ホームの職場に訪れた時のお話です。

その日、私が施設へ行くと、初江さんという女性に出会いました。初江さんは他の利用者と話すことが少なく、口を開ければ喧嘩になり、あまり施設に馴染めていませんでした。

私は利用者一人一人に挨拶と自己紹介をしました。皆とても優しく穏やかでしたが、初江さんだけは笑顔を見せず不愛想な感じで、「はいはい、よろしくね」と言いました。第一印象としては怖い人という認識でした、優しく話しかけてくれる利用者と話していると、怖いと思っていた初江さんについて話をしてくれました。「彼女は口が悪くて不愛想だからいつも一人なの」私は初江さんのことが気になりました。施設で一人つてどんな気持ちだろう。話をする人ができれば施設で楽しく生活できるのでは。少し怖いけど彼女を知りたいと思いました。

テレビを見ていたので隣に座りテレビの内容について話しかけると、「別に好きでテレビを見ているんじゃない、他にやることがないから見ている」と言いました。一緒に話がしたいと言うと、少し変な顔をしてから様々な話をしてくれました。家族の話をする時はずっと嬉しそうな表情をしていて、初江さんは少し言葉がきついで

けで悪い人じゃない。むしろ時々私を孫のように接してくれて、とても優しい人だと分かりました。他の利用者にも知ってもらいたいと思いました。

それと、一緒にいて気になったことが一つありました。それは初江さんが一度話したことを数分後に再び話すということでした。後に彼女は認知症だということを知りました。でも、一度聞いた話でも反応を返すと、とても嬉しそうにしてくれて、笑顔が何度も見れたので良かったです。一日が終わり、別れの挨拶をすると、初江さんは私の手を握り涙を流しながら「今日はありがとう。ずっと一人で、こんなに話を聞いてくれた人は久しぶりで嬉しかった。もう明日は来てくれないの？お願い。これからも毎日来て一緒にいて」と言いました。私も涙が止まりませんでした。こんなに感謝され必要とされたのは初めてでした。初江さんは認知症だから私のことを忘れてしまうかも。そう思うと悲しいです。でも私の姉が「認知症の人は記憶が失われても、悲しかったことや嬉しかったこと等の感情は残ることがある」と教えてくれ、私と一緒にいた感情も初江さんの中に残っていてくれたら嬉しいのです。

また機会があれば、初江さんと会って、沢山話をしたいです。

石下中学校 一年生

岡田 彩花



磯部 昌子 (元気館デイサービスセンター)

「おじいちゃん だーいすき♡」



茨城県老人福祉施設協議会長賞

ごめんねとありがとう

私が介護というものに興味を持ったのは、祖父がきっかけです。中学生の頃、祖父が認知症になりました。

当時の私に認知症という言葉、知識、理解は全くありませんでした。ただ「じいちゃんがボケた。」との感覚でしかなかったのです。食事をした事を忘れる、用もなく出歩き帰ってこれなくなる。今考えると認知症特有の行動でしたが、当時の私にとってはそんな事は分かりません。大好きな祖父がどんどん変わっていく…それが理解・納得できず、苛立ちは募るばかりでした。

そんな祖父との生活は約二年続きましたが、終わりにはあつと言う間でした。授業中に先生から呼び出され、「おじいさんが病院に運ばれた。」頭が真っ白になりました。亡くなった祖父をみて、涙が止まりませんでした。悲しいより、悔しいという感情が現れ、何も出来なかった自分に後悔だけが残りました。それから私は、認知症について学びたい、祖父に出来なかった事を、同じ境遇で困っ



愛和苑デイサービスセンター
介護職員

館野 珠美

ている人を助けたいという思いが強くなり、専門学校へ進学し介護について学びました。

卒業してからは特養へ入職し、6年間働き、現在はデイサービスに勤めています。特養とデイの仕事は、真逆と言ってもいい程異なり、戸惑う事も多いですが、ただ一つ言えるのは、利用者様の笑顔が見たい、一日一日を楽しんでいると思っていきたいという気持ちは同じだということです。毎日笑って楽しく過ごすのは、簡単なようで難しいものです。そんな素敵な日常への手助けをしたい、私はそう思いながら日々を過ごしている所です。

今の私なら、祖父に出来る事は沢山あるなとつくづく思います。祖父の存在があり、教えてくれた事が今の私を造り出してくれたので感謝しかありません。

おじいちゃん、天国から見えてくれていますか？あの時はごめんなさい。そして、ありがとう。



笹川 星果 (れもん)

「桜より素敵な8人発見!!」

茨城県社会福祉協議会長賞

介護を通して考えたこと

私は「介護」ということを通して、自分の短所を理解し、介護について考えることができた。

私の亡くなった曾祖母は認知症だった。私の顔を見ても誰だか分からなかったり、不審な人を怪しまず、お金を取られてしまうなど、そんなことが毎日続き、介護をしていた父や母は大変だったと思う。しかし、父や母はその大変さを表には決して出さずに、優しく丁寧に対応していた。それに対して私は、心では分かっているが、強く冷たい口調で対応してしまっていた。この対応が曾祖母を深く傷つけているとも知らずに。

そして月日は流れ、中学二年生になったある日、認知症サポーター養成講座が行われた。そこでやっと私は自分の対応の良くなかった所や、相手のことを何も理解せずに対応してしまうという、短所などを理解できた。私がした対応は、認知症の症状の悪化が急速に進む要因であることも知り、深く反省した。

だから、身のまわりにいる祖父母が認知症に

なってしまったときは、絶対に、私が曾祖母にしなければいけないようにしようと心に誓った。症状が悪化しないように、傷つけないように、そして自分の短所を改善できるように、その時はしっかりと認知症の人や自分自身と向き合っただけでいい。

そして最後に、私は介護を通して人の心と体の関係も理解できたのではないかと思う。心が暗い気分になれば、体も思うように動かなかつたりと、心と体は密接に関係しているのだ。だから今、身のまわりに認知症を初め、介護を要する人たちがいる人たちにこう言いたい。

「介護は大変かもしれない。けれど、私たちの行動次第で、その先の未来は、明るくもなるし、暗くもなるし、いくらでも変える事はできるんだ。」と。



鉾田南中学校 二年生

井川 陽羽



鈴木 弘子（新つくばホームデイサービスセンター）

「藤井四段にいつになったら挑戦できるかな？」

茨城県社会福祉協議会長賞

きっかけ

特別養護老人ホーム セ・シボンかしま 介護職員

藤浪 あゆみ

今の職場で働き始めて5年目。資格を取得してから、3〜4年が経ってから介護の仕事に就きました。働く勇気を持てなかった私が一歩踏み出す勇気を出せたのは息子の一言です。話すことができようになる「大きくなったら人の役に立ちたい。」と突然話したのです。その時に自分の夢は何だろうかと思い、こんなに小さな息子ですら、ぼんやりと将来ということを考えているのかと感心したことを覚えています。そんな息子の一言もあり、この仕事で働き始めました。小さい頃、立派な事を話した息子は、やんちゃですが心優しい6年生。そして私は介護職5年生。子供が小さい為、働く場所が限定された就職活動でした。就職してみるとやはり大きな壁にぶつかり、自分にはこの仕事に向いていないのではないかと考え、悩む時期もありました。実際は今でも悩みますが、そんな時に必ず思い浮かぶ言葉があります。入居者に「お姉ちゃん、俺が死ぬまでいてくれよ。居なくなったらさみしい。最期までいてな。」その

方がどんな思いで放った言葉なのか、些細な一言だったのかもしれない。でも私には、今もこの仕事を続けられる原動力であり、心の支えになる一言でした。そして、その方の支援に携わることができなかつたら、この仕事を続けていたか分かりません。また、ご家族様には「大変なのにありがたい。」と言われました。たった一言で、ここまですで私を成長させてくれたこと、介護職のマイナスイメージではなく、こんなに温かい仕事だと教えてくれたことに逆に私が感謝したい気持ちです。この先、何があっても私はこの言葉に、この温かい気持ちに支えられていくのだと思います。

十人十色、人間対人間、性格も違えば、介護度も違う、その人それぞれの支援を行う大変さ難しさ、やはり私も感情がある人間です。

たまには息抜きをしながら、3Hではなく、4H、HAPPYをプラスして、また明日も明るく、ニコニコ笑顔で、はいミッキー。



岡野 祐太 (れもん)
「どっちがキレイ？」



茨城県理学療法士会会長賞

利用者様に教えられながら



アール医療福祉専門学校

久保 真

私は福祉専門学校で学んでいる学生です。在学中に介護実習で現場に出て様々な経験をして介護観を育んでいます。学校では多くの科目をこなし知識を吸収していますが、介護現場に出てみて思う事は、利用者様との出会いと触れ合いが実に多くの事を教えてくれるという事です。

私は人づき合いが決して上手ではありません。だからと言って何もしなければ利用者様は何も応えてはくれないのです。初めて仕事で介護現場に出た時の事です。九十を過ぎた車イスに乗った介護度の高い女性とのふれあいです。私は初めてオムツ交換を行ったため緊張して上手に出来ませんでした。その利用者様はほとんど言葉によるコミュニケーションができず叫び声をあげ訴えるだけの方でした。私は便失禁した利用者様に清拭を行い、汚れてしまった身体をきれいにし、一時間近くかかってやっとの事でオムツ交換を終えましたが、その間利用者様はずっと声をあげ続けていました。私は「気持ち悪くないですか。今きれい

にしますね。」と声をかけながら必死でした。無事オムツ交換を終え利用者様を車イスへ移乗させた時、私は驚きました。ほとんど言葉を話す事など出来ないと思われたその利用者様が小声でしたがはっきりと「ごめんね。ありがとう。」と私にお礼の言葉をかけて下さったのです。利用者様とのコミュニケーションが一見上手に出来なくても、必死になって真剣に行った姿勢と心を利用者様はちゃんと理解して下さった。私はその利用者様に介護の心を教えられ、初めて介護の世界に足を踏み出しました。その後様々な利用者様と関わりその都度様々な事を教えていただき更に理解を深めようと専門学校で学び直しています。原点となった利用者様との出会いを私は忘れません。



宮本 恵美子（博慈園）

「一世紀を越えた出会い」

茨城県理学療法士会長賞

介護について考えたこと

山井 恭範

あつという間の人生、思えば、そして：
だれかの役に立ちたい、と行って行動するボラ
ンティア活動を続けています。

介護予防体操教室に行くのが楽しいという老夫婦、しかし、運動は一人では、なかなか続けられないものです。こうして毎週一回、身近な友人など志を共にするパートナーがいることで続けやすくなります。すぐに効果が出るものではありませんが、まずは自分のからだに目を向け、目標をかげ、必要な運動を続ける事で、効果が感じられるようになります。専門的な能力をもつ人たちは、運動の効果に、年齢は関係ありませんという。もう七十過ぎで年だから仕方がないよと、参加者の声を聞きます。運動によって、頭やからだの老化を抑えられるだけでなく、若返ることさえ可能になることがわかっていきます。体操教室では、転倒予防、食事のときにむせない、肩・膝・腰痛の予防、尿もれ予防などのリハビリ体操を行っています。年齢を重ねるとともに現れ変化の不安の解消

のために、家に閉じこもりにならないように、体操に参加してもらう。

行政も、いっしょになって協力してくれます。私たちの運動の効果は、参加者のやる気や生活の変化でした。腰の痛みがなく、腕を上げられるようになった。友人ができて、いっしょに食事に行きました。「継続は力なり」と申します。行政、私たち指導士との連携で効果がでていきます。つくばみらい市の介護の認定率が、昨年にくらべて下がっている（二十八年度）との報告を受けました。私たちの体操の効果がでていきます。介護の認定率は、私たち指導士の人数を増やすこと、参加者の人数を増やすことです。介護予防の普及と開催場所の増大です。介護予防は、仲間と日々の積み重ねです。私たちボランティアは、今日も「笑顔」でがんばっています。



矢吹 剛 (ハートピア水戸)
「園児との思い出」

茨城県介護福祉士会長賞

時間を共有し共感しよう

見川中学校 三年生

石井 翔大

介護とは、身体的にケアする介護と、心のケアをする介護があるのではないかと考える。

僕の祖母は二年前に乳がんがんで亡くなった。

一度は手術で良くなったのだが、再発し入院治療をしていた。しかし祖母の希望で最期の時は自宅で迎える事にした。自宅に戻ってからは短い時間だったが、家族にとって絆が深まり貴重で忘れられない時間となった。

家族が一番してあげられる事は、心のケアではないかと考え、専門的知識が必要な身体的なケアはプロに任せた。毎日、看護師さんが体調管理、点検交換、清拭など体のケアを行ってくれ、先生も往診に来てくれたので安心だった、あとは、祖母の心を満たしてあげる事だと思った。

「退院したら何がしたい？」

「料理をして、みんなに食べさせたい。」

こんな会話を病院で祖母とした。どんな時も家族の幸せを願い、おいしい料理と優しい笑顔で家族を支えてくれていた祖母らしい希望だった。しか

し歩く事が出来なくなり、酸素吸入をしていた祖母がキッチンに立つ事は無理だった。「ポテトサラダだ。ジーが畑で育てたじゃがいも、きゅうりを使って、みんなで合作のポテトサラダを作ろう。」ベッドの上で祖父と祖母がきゅうりを切り、僕と祖母でじゃがいもを潰しマヨネーズで和え、家族合作のポテトサラダが出来上がった。祖母一人で作っていた時より時間がかかったが、その時の祖母の満足そうな笑顔は、家族にとっても最高の笑顔となり励みにもなった。そして協力して一つの作業を行った事により、生きている時間を共有する事が出来たと思った。

今回は介護する側だったが、祖母からたくさん愛情と「ありがとう」の感謝の言葉で、心をあたたくしてもらった。素人に出来る事は限られている。しかし、互いに思いを共有し、生きていると実感する事によって介護の幅が広がり、介護する側、される側にも出来る事が増えるのではないだろうか？



沼本 妙子 (くきの里)

「同級生 80 年ぶりの遠足」



茨城県介護福祉士会長賞

介護で得た家族という絆

四十歳を過ぎて、事務職を辞め、介護職に就きました。この歳で常勤で働き続ける仕事、自分が必要とされる仕事を探して、介護を始めました。初めの三年間は、仕事を覚え、決められた仕事を決められた時間に始め、終わらせるといふ繰り返しでした。振り返ってみると、まるで心のない兵隊のような毎日を送っていたように思います。介護を始めようと勉強していた頃の自分の考えや思いとは、何か違ってきていました。

仕事として必要とされていても、人としてのかわりが薄く、それに徐々に慣れていく自分が怖くなりました。

介護を始めて、ちょうど六年目に、現在の職場に転職しました。入居者様に声をかける時間、お話を伺う時間が沢山あります。コミュニケーションをとることで、少しでもその人が望んでいることに近づけることができる支援が提供できると思っています。この仕事は、頭も心も使います。難しいと感じる反面、楽しさも感じています。



特別養護老人ホーム

セ・シボンかしま

介護職員

能城 裕子

「家で、親・祖父母と暮らしているような」が私の理想です。核家族化の現代、昔のように、家で子供が親を看るといふことは難しいのは当然です。私も、じきに介護が必要になる母親と暮らしています。母親は「施設に入るからいいよ。」と言っています。介護という仕事を通じて、ほとんどの方が「家に帰りたい。」と思っていることに気がきました。人は「家族と一緒に生活したい。」と思っていて、それは、今も昔も変わらないと思います。

私は老人保健施設にいる頃、家に戻り、家族と一緒に暮らせるようにと支援してきました。現在の職場である特別養護老人ホームでは、様々な事情で家族の介護ができない、ご家族に代わって、安心して生活を送って頂けるように、日々、支援しています。ご家族に向ける笑顔と変わらぬ笑顔を私たちに向けて下さることが、私の仕事の励みになっています。

いばらき介護フェス2017



～心でシュート!気持ちガゴール!
見て・聞いて・楽しく学ぼう!～

内容

◎「介護の日」感動・感激 心温まる写真展 ◎事例発表・トークイベント等

写真展示期間



写真展示会場：イーアスつくば：11月 3日(金)～11月 6日(月) 2階
茨城県庁：11月 2日(木)～11月12日(日) 2階
水戸駅ビル：11月11日(土) 6階
ファッションクルーズ：11月11日(土)～11月20日(月) 1階

トークイベント・表彰式・事例発表



11月11日は、介護の日。

◎日時 11月11日(土) 10:00～17:00
◎場所 エクセルホール(水戸駅ビルエクセル本館6階)

入場
無料



EVENTS INFORMATION [イベントスケジュール]

| | |
|-------------|---|
| 10:00～12:00 | ワークショップ「想いをカタチに」 powered by 介護ラボしゅう |
| 12:10～12:50 | 茨城ロボッツ(チアリーダー)と音楽療法がコラボ <small>今年も感動的な作品が揃いました!</small> |
| 13:00～14:00 | 「介護の日」作文&写真コンクールの表彰式 |
| 14:00～15:00 | 身近な場所で素晴らしい取り組みが! 各事業所の発表 ①成華園さん ②もみじ館さん ③久慈川荘さん |
| 15:00～16:30 | 【特別企画】若き介護のリーダーと介護のこれからを熱く語りあう! トークセッション「介護の未来は面白い!」 介護ラボしゅう 代表 株式会社 Join for Kaigo 代表 中浜 崇之さん × 秋本 可愛さん |
| 16:30～16:45 | 閉会 |



福祉機器の
展示ブース
10:00～13:00



HAL®介護支援用
iCAT
ぜひ、体験してみてください。



茨城県老人福祉施設協議会 (平成29年10月現在 会員事業所 1,110 事業所)

〒310-0851 水戸市千波町1918 県総合福祉会館2階

TEL 029 (241) 8529 FAX 029 (241) 4456 <http://www.jsibaraki.jp>

茨城県社会福祉協議会(茨城県福祉人材センター)の取り組み

福祉の仕事に就きたい人と人材を求めている施設・事業所をつなぎます！

茨城県福祉人材センターは、福祉従事者の確保を目的として、社会福祉法に定められた機関であり、茨城県から茨城県社会福祉協議会が指定を受け運営しております。

参加しよう！



ふくし職働(しょくどう)のご案内

福祉の職場に就職を希望する方や従事している方に、求職者支援強化事業「ふくし職働」～ふれあって 暮らしをささえる しあわせな職業どう？～として、福祉の仕事に生かせる実践的な講座を開催しております。

ぜひ、この機会に参加して福祉職場への就職に生かしてみませんか。

■暮れ六つ講座(原則第2火曜日の午後6時～8時)
就職活動や、福祉の仕事に従事する際に生かせる実践的な講座

■夕暮れしゃべり場(隔週水曜日の午後6時～8時)
福祉の仕事に従事している方、また就職を希望する方等、誰でも自由に語り合えるサロン

■仕事とところの相談(夕暮れしゃべり場と同日午後1時～6時開催)
就職や仕事に関する不安なところのケアを、専門家が対応します

■木になる講座(原則第4木曜日の午後1時30分～3時30分)
就職活動や福祉の仕事に従事する際に、まさに「気になる」テーマを題材とした講座

■おひさま講座(原則第3金曜日の午後1時30分～3時30分)
昼間開催する就職活動に生かせる実践的な講座



※詳細については、お問い合わせください。

体験しよう！



職場体験事業

実際の福祉現場を体験する機会として「職場体験事業」を行います。実際の福祉の職場の様子を見たい、学びたい、体験したいという方は、ぜひ参加してみませんか。

| | |
|----------------|---|
| 体験先 (高齢者分野) | 特別養護老人ホーム、介護老人保健施設、老人デイサービスセンター、グループホームほか |
| 体験内容 (例) | 各施設・事業所が用意する体験プログラム 利用者の介護・介助、作業補助、利用者との交流など |

働こう！



福祉人材無料職業紹介事業

福祉人材センターに求職登録された方には、ご希望の事業所などへの職業紹介・あっせんを無料で行います。

福祉の仕事に興味や関心のある方はご相談ください。

- 福祉人材無料職業紹介
- 福祉の就職総合フェア・就職相談会
- 福祉の職場説明会(就職ガイダンス) など



社会福祉法人 茨城県社会福祉協議会

〒310-8586 水戸市千波町1918番地 茨城県総合福祉会館2F

TEL029-241-1133(代表)、029-244-4544(福祉人材センター) FAX029-244-4543

URL:<http://www.ibaraki-welfare.or.jp>



茨城県理学療法士会は、理学療法を通じて
県民の保健・医療・福祉の増進と自立生活支援に寄与する事業を実施します。

★北茨城地域自立支援センター

- 住み慣れたまちで誰もが安心して暮らし続けられるよう、理学療法士がリハビリテーションの立場から、保健・医療・介護・福祉・教育・就労の更なる連携推進をお手伝いさせていただきます。
- 平日の13時から17時、北茨城地域自立支援センターに理学療法士が駐在し、より良い在宅生活の構築に関する相談を受け付けておりますので、お気軽にご連絡ください。
- 北茨城市や関係機関・団体とともに地域リハビリテーションの手法を活用して、北茨城市の地域包括ケアシステム構築を目指しています。

【相談事例】

- 退院・退所後のご自宅での自立した生活方法、住宅改修のアドバイス
- 訪問リハビリテーションを受けたい
- リハビリテーション、職業性腰痛、介護方法に関する勉強会の講師依頼
- 障がい児・者や家族からの在宅生活、リハビリテーション全般に関する相談 など

【実践活動事例】

- 入院中の退院調整会議や地域ケア会議への参加
- ケアマネジャーや訪問看護師等と同行訪問
- 介護予防事業や通所サービス事業所での個別・集団対応 など

★介護予防キャラバン

介護予防キャラバンは、県民の皆様がいつまでも生き生きと健やかに過ごせるよう、自らの心身機能や活動に対する意識づけや啓発を目的として、体力測定に基づく助言の実施や様々なニーズに対して、理学療法士が相談を受け実施します。

【昨年度実績】

- 茨城県理学療法士学会
- 「まちの保健室」事業（茨城県看護協会）
- 古河市「古河ふれあい広場2016」
- ひたちなか市「健康づくりキャンペーン」(
- ひたちなか市「健康スポーツフェスティバル」
- 筑西市「みんなの生活展」
- 介護予防フェスティバルin北茨城

【今年度実施・予定】

- 茨城県理学療法士学会
- 「まちの保健室」事業（茨城県看護協会）
- 笠間市・つくば市「日本理学療法士協会全国一斉介護予防・健康増進キャンペーン」
- 古河市「古河ふれあい広場2017」
- 水戸市「健康づくりキャンペーン」（茨城県）
- ひたちなか市「健康スポーツフェスティバル」
- 筑西市「みんなの生活展」
- 介護予防フェスティバルin北茨城

★訪問リハビリテーションサポートセンター

- 「心身機能」「痛み」「歩行・移動動作」「自立支援」の専門家である理学療法士が、お子様からお年寄りに至る訪問リハビリテーションに関する相談を受け付けています。
- 訪問リハビリテーション事業所の紹介、訪問リハビリテーションの制度やサービスの紹介・相談等をさせていただきます。お気軽にご連絡ください。
- 相談日時：平日9～17時 直通電話：090-4361-8985

今後、県内44市町村と協働して上記の事業などを市町村単位で展開し、県民の健康寿命の延伸を目指します。

【お問い合わせ先】

公益社団法人 茨城県理学療法士会 北茨城地域自立支援センター
〒319-1559 茨城県北茨城市中郷町上桜井844-6
北茨城市コミュニティケア総合センター元気ステーション内
TEL：0293-44-3616（直通） FAX：0293-44-3617

公益社団法人 茨城県理学療法士会
〒310-0034 茨城県水戸市緑町3-5-35（茨城県保健衛生会館内）
TEL：029-353-8474（直通） FAX：029-353-8475
ホームページ：http://www.pt-ibaraki.jp/

仲間と一緒に自分をみがこう

一般社団法人茨城県介護福祉士会は、介護福祉士の皆様をサポートします。

サポート1 スキルアップのための多彩な研修会の開催

- 実習施設指導者講習会
- 介護福祉士国家試験対策講座
- サービス提供責任者研修
- 障害者支援のための研修
- 介護技術指導者講習会 等
- 全国規模の日本介護学会・全国大会



サポート2 全国の仲間との新しいネットワークづくり

日本介護福祉士会茨城支部として全国に介護福祉士のネットワークを持つ全国規模の組織です。会の様々な活動を通して、個人のネットワークを広げていくことにより日々抱えている悩みや困難なことなどを同じ介護福祉士同士で共有し、助け合うことができます。あなたの新しいネットワークづくりをサポートします。

サポート3 職場環境の改善等への取り組み

介護福祉士の処遇や社会的評価に関する調査・研究のためにアンケートを実施し、その結果をまとめ、厚生労働省等に提言を行っています。

サポート4 最新の動向・情報の提供

介護福祉士に必要な福祉施策の動向や研修会の情報をはじめとした、様々な最新情報を発信しています。提言・調査結果は日本介護福祉士会ホームページで確認することができます。



〒310-0851

茨城県水戸市千波町 1918 番地

茨城県総合福祉会館 5 階

一般社団法人茨城県介護福祉士会

会長 沼田正人

☎ 029-353-7244 Fax029-353-7246



茨城県

茨城県保健福祉部長寿福祉課地域ケア推進室

〒310-8555 水戸市笠原町 978-6 tel.029-301-3334



茨城県老人福祉施設協議会

〒310-0851 水戸市千波町 1918 tel.029-241-8529